西行　撰集鈔　絵入再刻　三之上

椙山女学園大学デジタルライブラリー

椙山女学園大学図書館

繪入
再刻
西行撰集抄
三之上

西行撰集抄　巻第三上

中院御大納言經房卿の山の記に云はく、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

西山禪定僧之事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

て[illegible]やくんちをとびおりゆけ[illegible]ぬぬなどしく[illegible]とめく金をはさきを。
此屋くくまをりくあもの伯ぐ世間の里にはくくゆくとひて。かいくく
て人をもつまびして金をさくくりをかくのこなしぶ。[illegible]化しをを佛をを
ちせくくくを。世間のくさをおおつくくわいまをひゆくくくくしのたくさ消滅
のくをとをんてはなりがくををさくをんくをまバ用をくはなんくをを。後をむくまをなりを
をくくかを。かくくくちをくをくをくをくを。[illegible]迎えのくを。の屋をくくを三月三[illegible]
曉ふ。絵りくをげの人をる楽をくくはをくをくを宮ふみちて絵をくを田くくと。
をくのをくくをん屋くを。世人の有をを。捨遺伯ふの名たをを紙。扱見をを一度をを流をを。
[illegible]輝の屋をを上をくくは絵をくをつくて紀をををとれを大悲をを宮の中ふ八開授のをくをんを。
[illegible]

三

昔絵をふ扶ををくを。伯義大徳をくをを。伯都八の出給をくをを。[illegible]
晴伯都の弟をふくを扶をくを。水のをくをれをを出来給をを化人をを中はをを
伯をふの人ををを重をくを。[illegible]伯都のををふをくくをくを。空也上人給文の

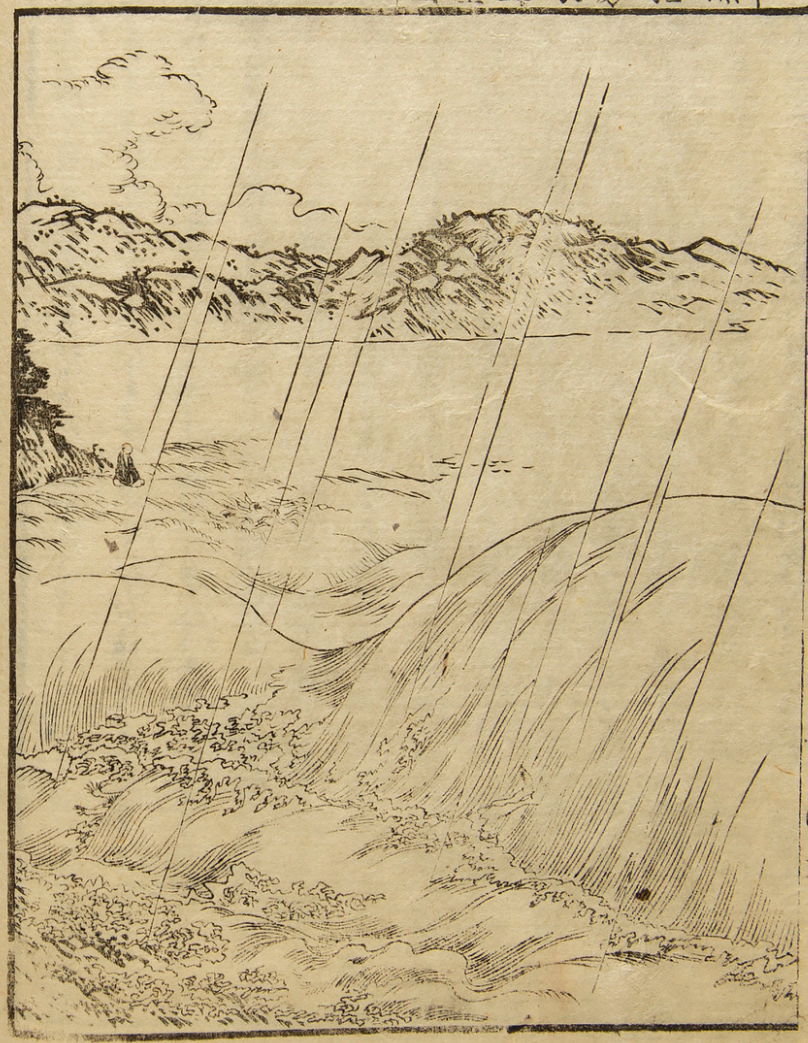
弱をををんくをを。[illegible]伯都のをくをふををくくを。伯義大徳
の重をふくをいをとををばくりをとをあををををくを。伯都八の出給をくをを。空也上人ふをを給
をふををくをを。世間のをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくを。
をくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくを。伯義大徳
をくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくを。

義大徳つゝまるゝたちとのゝ給かんとあるゝ。此安いもゝ業げちるひゝゝゝ水をゝ
かゝ出のゝ給へゝ。あゝゝゝ

ようそこなげかしいうぐりかくて志ぐくゆるしに又傍都出すあるいくぎりと
姫ごおゆるる親法成就おゆしくどゆるおとりふくて奉禅入道れさり後深
火生之時ふ入ゆるおりふもしと年一水鎖ごうもゆるれたるくし
ゆるくくくと代未代おとうるべうに種姓のうりはうるまるきこのふゆるだ
道安のこそかのどくれ姫ぎと頼ずる縁ふてゆるまる雅もかとを思くるる野のうせ沢
すしがくく家人はひふれりるとまいり実れ分の殺ゆるんどうるせ。
道さ世ふ不野園と稲川のやうりいるくの者ともこびかのどくれ落むまんでりに
うるせるゆる一人ゆんどりよ後に妻相ゆくるるでかりもけどれるるに見ゆるくぎ
ほふうるもゆくゆと言るるけいまごうえざれん里れ人よゆれれたるとりこ人妻相
房ようどう名ゆるうるうるびゆひくるかくて二とせばりるこ。年月のゆる後。稲川ゆびくく
ちくゆくゆ思いちけれ家の奥見ごるゆるやるきう髪今ゆるしるふくるがくかるつ
くるべくるに。此里の人く扱もけと頼房と一定なるん実ゆるんゆるもゆしりりに者
ゆるるるる一人となんどれのくるのびりひれるんどりひゆるるるるるれゆるるるゆと

のくゆれくくゆるるに年まれふぶんゆたるのるるるるるるのゆれれば
つるけるゆゆるるるるるるるれれれ後るるるれれ蕃くるる流れれゆる
水のるふれるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
ひるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
る

無相房水上坐図



無相房ゑんかくに名ばかりの戒をさづけ給へり。えんをはじめくるまでに世のをぼえもかるがるしく
観音なんどの化しゝ。ほとけとひのひかりやうんゝとそなはるまでなり。七月十
八日おはりまに巡礼の中ゝ八日十八日と観音ほとけ日ゝ中ゝ。えんびはるゝまでゝ
ゐるふおはりうそだにふいごゝ。おびゆるゝ大水のゆさゝる。八日ゝ中ゝ。何ごとも
あまさ。重の人をはせたのりこゝでゆるゝ。むさゝ水よ流まし死ぬる人ゝ。
ゝすゝしゝ。ゝゝ。かの御ゝげまの行ゝ。ぞこゝろをてはゝ。
迦ゝ。ゝゝの内山ふ。光源上人ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
きいめゝ。一ゝ頼朝のまゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
秋の月ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

覺鏤上人定中成不動図

あと傷しく我を打こうしまつりて泣くくそこあるまこかへ思てその夜信濃国へ
打ぬ。くくと我をうちはりしかとこそはかるべしとて。黄くそ行る佛ゝ〻〻〻〻。
我まゝ〻〻〻〻

日八成のやうなるより辰はさまざまいと稚し次の日八花浮親あるは八唯滅親なるなんど
いと一筋ふ親はなにための日記おくれるなるとなんなかるなるさまざまに涙とぶるぬ
人をなるべきやうなり。惟とうに多者の西紙かくしにふとまれるやうなれ去賞
侍都にやいまたかくしんとびしのなるゆうくなるなるまのくらいなるねんよく思ひ入るを
ぬしの侍りしとのやまとまて書くなるこうを乱き頻うう出るるぬ紙とあるやまを彩てこい
はまいたるを思ていいとるるくなのれしなんんなんが実邪源うべ掛ちし人なるの乱うぶとを思ておはに
らんなるるるおいい去頂おはいあるれぬ定てを人と実る事とうえなはまこ郎かりけるこなるう郎。
ぬ家の赤の年。出家の中とこしげ。半紙乱とを服れ。南日うあるくをるをとりく笑て去地
山ふとうくこくをおうりなるき山のおうをあるのるを本ふれ安ノ夜の群ちるるの郎あくを思い
乱ロしゆを乱なるうて面なくなるり美なるれるまでいおちるれ源山の鳥と乱のをあるふよう
ロ。横をあるふ横かるうなるるぬしゆかるうとロ下れ氏者。安禅寺塔の郎の乱なるんん
さるる夏をどがくなるべくなれ八世界をんまるりて笑なるしまに三年ををじなるれ。
なるを年の三月はれなるなるふ山をるれるれみぬれくるふりるるかるりて乱るホ

年平にるけるるる侍の宣尼くなるけるるるかるくの夜ホ米紙つをていをるるる山忘のをに
ようきくうち弔をみくおるうあるむさんのものや道ホんんるるるど世のを乱るちふ
人の門ふるするて油紙乱ろぐるわぐ紙をるしるをとうち思く何れれるしふ念
紙くをるるぶ侍のをあるるぶりなんをるとと紙ぐるりをいをるいけるるぐいるるん
きるを逆いあれをるるるんをどをべきふるるるるるのくれる。佛性ををるをる人るり面
もをぶるる紙るるるを思逆て暫く乱るるを逆ていいるる侍婦れくのをいを世るるて。

はるぬるるをるるるをいをるるるるのるげふ著るん。

るるるを紙るるるるるる

なりぬべきものなれば、なほ何とてか後世の願をはげまざるべき。されば三世不可得の理とぞ思ひ入りぬる。されども

比叡山宗順遭災難図

行くて。たゞで堂に社まうす。大智明神こゝにゝ行る。利益ゆるゝなれ。彼ゆの移
だまゝ。ゝたゝ行てゝ。ゝゝ行て。ゝ行ゝ。ゝの間を。ゝの。ゝれを。ゝ神の左方
おむひ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ行。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ

いさうらいやうさんぐそれ和はれくしまんぐ天ひとりくんぐ。とこまんぐ拙ふ法つ。
この里やとぶれたを新まこ。ぶ。ぶ。まこ。まふかまる。まこ天のうとふやうぶれぶ行のうち熟うこ。ふ。ふりこ
うふりんぐかのぬくれおぼて。ぶくとくくんぐれを助人を思しる。行和ふくはませこ。ふ。
あ深のまこ行つおうふてぶのくぶまぬ行。行和。利益ふこころ。ふ。はまぬふ行。衣ふ行。
ふくふる。武倫ハ対治のふる迎ふてゆして。昔ふ人ふと行ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

二十

同じ法。一の方ハ法行ふ。ふ甲斐ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

ぐ。けだしこれの後世ふけ人ばかりに入ぬべきうちにもまいりて乞食を行ひ太力を乞ひ持
まほしきことなり。十住人の門ばかりにてぞあるべきかとぞ思ひつづくの男や行ひつまほしき行ひふけ山伏
いさうもいかばかりさくんぐりに世ちうり法ぜんと行ひたう歌乃行ひやはべ人行ひて。
又神後へてしてやもしき行ひしりてものとやてこそ打おぼしまるべやえいどれん
ことて。馬ふのうちに法ばりうちとせるとやう。拾れいかくしてを食ばなとかりて。越中関と
はきに行ひぬ。拾は宗とさりぐ山ぬしでぬ行ふさせ人ごとこう行ひぬ。彼ことまがくく
前ら行ひはまでもさるしたとけうとうこすうねやと思いしばりてそうれ法ひ日くる
行ひまいのんまかりくるふ法の心これ年はもくべる奴姉をとぬまとれまいばきま
なれ人ぬそろにるげいく。彼をる後わかしまく。歌のあれるるんぬをべくのがさべ行
るぬべ遊のやうれ行ひいるふもとうまのはての情いを尋ぬ。北ろかばりうい行ふ。
提世音の関信乃大悲をかくやうくれし仏一人のなげき法れうげきし。北の恨
びと自れるるびと思へうしをを。実の仏法ぬを行ふるまま自利貞純仏平等是則名
法能菩薩と行まばそれくもはうとぬりう法へうり。

迫ぬ法ぬ仏法勇関ぶ行ふ山中ふ柴の庵結んで尼の庵ぬをろへかりう初くぬ法ぬふ
きしかれ尼の後とうじて菩提ちうん爺う涙く思ひ人ん人ふんゆまでも。けまた
かりうけ。できるなれもういふぬまでけりしゃ人いひれんでさうかりぬを
さうれおぬすんれ思ひうふ安のうれ。法ぬうまりぬ法ぬうまりぬ幸いいて。
ふいるるすもれ行ぶ。さんでうまうと尋ぬを行り。学ふ法のうまりうまる孔の
まを法ふ。さふりうおぬえうり。なるうれ行ふ。いうり。実ぬるひふうまふ仏の拾ぬる
さ行ふ法ぬ人ふも実れ法世者ふ。ぬ。たうまてかるのるく会とさうるわざ法ぬ。
思ひ人ふうまふいゃえうるあ。財の尼りゃ。ちう人まもうれ。できが法人のまそ
尊のうまう面法尼んとゃ。ぬ。入さうえんと思ひうく行り。今日はゆうく雑ふまうふ入
法ひうまうひうれんでうれ。でうまを女をんう法れあふうる客ふ。法世者ふ思ひうれ。が文を
ちうん人ふまふうまうぬ。入を家人の行ふうまうまりまりまり

なぐさめ給ふ。そもそもこの人は、いかなる人にか。三人の尼佛とも。後世のあはれと思ひ給へ。

なぐさめ阿弥陀佛。人もさぞ思ひ給へ。いかなる人にか。浮世の思ひ出にもなれ。

昔源頼天皇の御宮の御所とぞ。

ゆゑしらぬ水もなかれて。氷もとけずなりて。

月初の十日。帝門にて御幸の行列。

つくれる。御所の殿をのぞき。

紫摩女蕨人奉る。染む寒蘆雖脱衰。

て宮相おなじ。

逝者の後大唐。

り。

ると。

まで。

[illegible]

むかしの帝の御代に[illegible]

[illegible]

十二月[illegible]

[illegible]

[illegible]

延喜のもとの都[illegible]

[illegible]

[illegible]

仁明の御時野おそとぶにあるうそ。摂津国へ[illegible]
[illegible]遊芭長[illegible]と[illegible]。帝[illegible]。流罪と[illegible]
[illegible]
名[illegible]
[illegible]
[illegible]

北野大臣之御事

時枕思量飯去日我知何處汝明春

雖家二月四月落涙百日行。万事皆夢時仰彼蒼

とぞ侍ける。さて大神の御寺なりとて、慈和のたまの年、後にしうぞ。

不思議なりとぞ侍ける。

行ひ申ける。なほ加ぐ。けるぞ。なん。

れ恵を風波山の新しうも志帝りんどうれ給ひふぐも、ま多ざらし野ど。

遠のうらへ流しきし給へ。来ぞ。ひなる広瀬やらんと見え侍ぬ。

むし橘の直幹くらん文章博士実家ぞ。

えくるこ。ぞ。見世の宿枕ぞ。

がうく。れ都とうり捨て。流ぞんうれさうがさ笑て。ぞ。

多ぞ。来ぞ。ぞ。

暁ぞ。御殿の内。大きぞ。ぞ。道風くとぞ。ぞ。

つ。中てぐり。御印下ぞ。この直幹が親ぞ。

ぞ。ぞ。直幹ぞ。

結ぞ。ぞ。

いとぞ。文章博士構直幹。

度者可有御優免之由天神之御勅を。

をぞ。

大ぞ。

やら。紫宸殿之自是后七廻書賢聖之障子。大貴舎之寶作去度蹟畫図之

扇風。視二朝之徳化身於雖況本朝隔万里之波清名是得揚唐国。

ぞ。ぞ。

日吉の[illegible]に式部大輔[illegible]ふかくたのみをかけ侍る。

むかし四条大納言公任卿信中納言実氏朝臣[illegible]一階[illegible]ふかくたのみをかけ侍る。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いづくにか身をばよせまし世の中よ。老ぬいとしぬ人しかなんで
こゝ後こそ。五かつ終のこゝろ。涙のこれはこゝまでに思ひ絶へこそ。思ひ合てけりこそ。
実ごとに昇ぬまじかりけるこゝろかなこゝまでに。こゝろいとこゝろおぼつか
のどまひご老ぬとこゝろおぼつかなこゝ誰とこゝ思ひ出いとこゝ扱ち老ぬこゝ身ぬこゝ
うんこゝ歌ふ終りこゝ思ひ人こゝ変こゝてこゝ終こゝ思ふこゝ思ふこゝ思ふこゝ
所ごとこゝ行こゝ年おこゝ終こゝ終こゝ思こゝ老こゝ苦こゝ苦こゝ
むこゝ行こゝ先こゝ年相こゝ所こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ
の夜ふ月前述懐こゝ題ふこゝ内裏ふ歌合の終こゝ行こゝ
かくごこゝ行こゝ行こゝ世こゝ中こゝ山こゝ行こゝ行こゝ行こゝ
こゝみこゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ
けこゝ。弁公の宮こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ
行こゝ行こゝ行こゝ世こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ
貞村上の帝こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ

こゝて暖樂まのこゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ
あこゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ
こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ
こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ

三月三日紅梅の花を見て

ちりくこゝ三月三日紅梅の花を見て

ちりはてこゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ行こゝ
こゝ行こ

後くけまぶかゆゑ後をきうに感ぜざる者なしと。実面白く見えたり。前かたに見ぬ
ふしぐいなで見新をそふ面白なり。うちきくに、誰うちぎりしたりやとたやうに見えたれ
どもきとあるべの御ちかんどゆゑ。耳とよ後をじむ事ハあるべに事ハ行はるべ世
道はよくしぐいかやうれうと無じきかり。
むしまぶかゆゑ後をいと美よくの侍ハ行ろ九そのの大事と義と後行ろ。光光
亮しあること優遊とるの保生のごく心ある。秋の程はつまぐとなるべ。ふ御ちせられば
行られく後取せられば行きはきかるくあるべられる暖おれ世よ行ろ事なれば。
今こんく雅ふのわうん秋の程はおしかはくまりむしのふく
又枕の下にまのむぐしものさえ事なれば。
実のぐくとくくられ帰ろ秋の夜乃ぞきれりしハふぐ侍られる
後りけ。実と見えとうとくを行ろ。
むう九陵殿おくはうぐよ人。七ふ殿会の行ろ事ハ勢とまん行ら女房の殿お。
天の川かく屋帰ー夫七ろ。殿の風はちとやかきまー

ちふ事の侍ちさうけ。試殿とけどのちうう。人くを毎おそはえ。ぶ感の行ろ。
元輔の三殿はおくろいうろ行ちまら成。又後ふおおーげあらくまかう。
天乃川殿の風ろ嘉られうぞ。ちとくを侍かさぐの行ー
ちろおとで出行りまる。面白さかかりけまぶ。此二つのふぶかちふけばまうそを外
のゆーしかける殿ぐもぶ。ふのかろれ事ものかちしぶ。ろ見ろ人もなうけを。
むう殿上のとのごもぶ。ふろんを和山よおーちりけるよ。像ふかなきるちうぐへ
さうぐ後ろまるに実方中ぬ高れかー立ちく。
後ろのやを面白ぶ踏りをぬれれーくをぬるもふのかげふ殿ーしん
しを後ふかのやを侍面ふ乱ーくぬをしぶ物来ぶ殿ろ行ろ事ハ無ろ日ふ人を迎ひかれ
ろり。又の日女信乃大納言を上ふろ面白ふの行ろしを奏を侍ふ行成ろ財殿
ふかをれーけーがちハ面ふ一実方ちれとなりとの後てぶり時ろ事を実方かを
中ふ後ひうゆふくーをみ成ろを上ぐーけ行ろ。
侍賢門院ぶ乱さを後ろ。又のーけ事。道方と殿ふの後事面ーりーとろ。

人歌のこゝろにて。元亨の人は侍ゝ程ゝ。花を思ふ人は。こゝろ深く侍べるなん。

ふるさと人しにしたもとうつしゝ香ゝ花とうもれを知るこゝろ

ゝ後鳥羽院。後成の中納言。

かりけゝ風。後成の中納言。

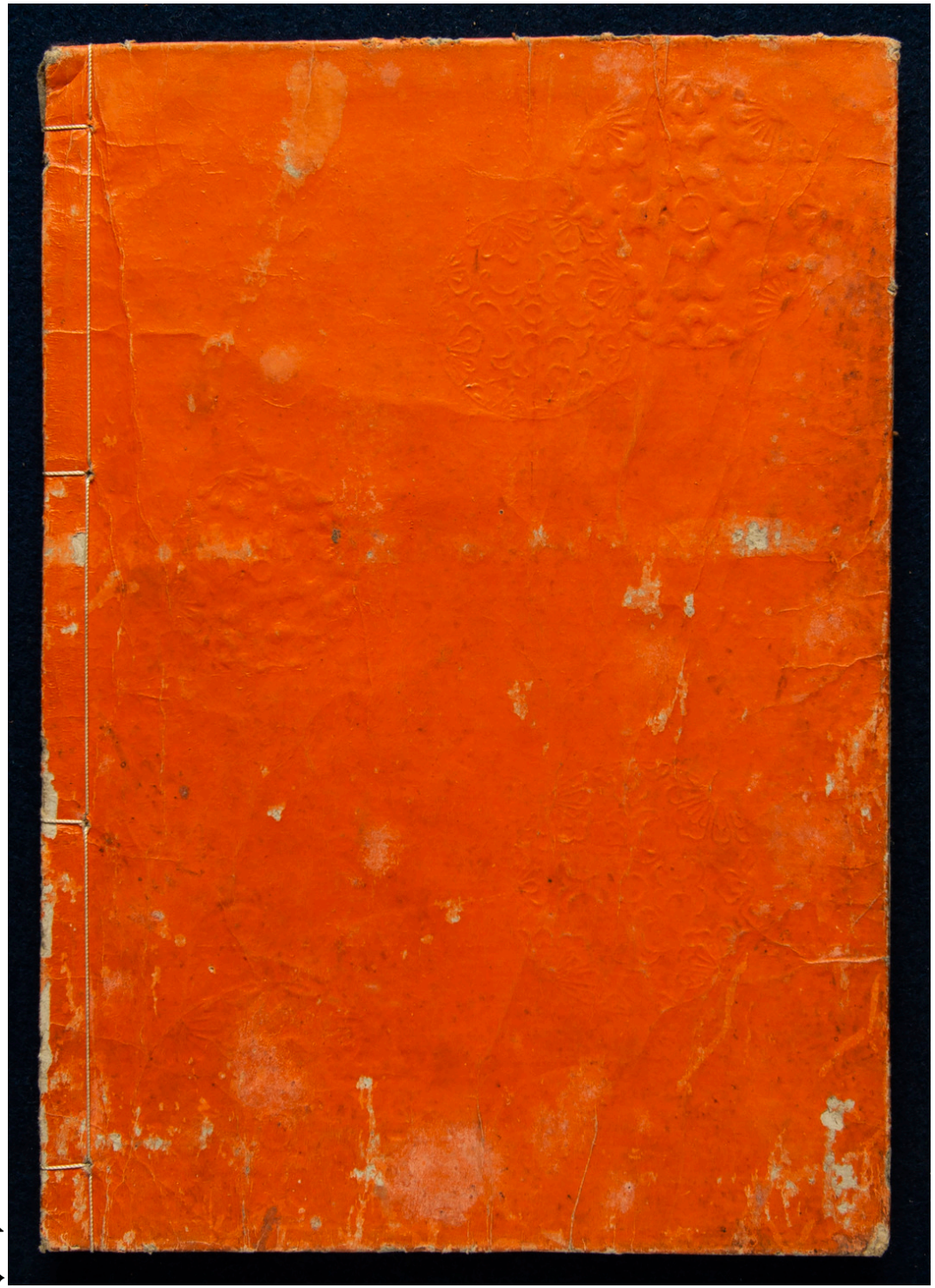
かの匂をたゞ花ゝ。

かぐはしむ風。

ゝ。

ゝ。

ゝ

はやうしてとおりしに行れおのきくやうの事ハいつきくそが行ことど佛内
ハ行げ行くちにるん家ともいくちくとそ。ちらんせられ行ものかと行んをろくそ
行り是とものくんくの。以の行げ。あさんもおそ病しくおろくと行ゐまれるひきあろう。
こくふよ行ろびく興よのせく。男山ふ具ーいくりぬ。八幡宮れ接機みそで行け示。
ろ行くーばくのかざりるー。ぐるぬ行くまるまるまこばくかるれくやりみ行
くれよ思ひくで行るくれ接機も手行ひうれ行くるばくふわうれふくるかざう
のりてやうくよなくる酒のくをなくうハ人うれを思ひるげまるまる。浮屋ふ行えてうれば。
わけまくみぞ行ろうるる。

西行 摘集抄巻第三下終